第6回 伊勢原市総合計画審議会 会議録

〔開催日時〕 令和4年7月13日（水）14時から16時

〔開催場所〕 伊勢原市役所 全員協議会室

〔出席者〕

（委員） 勝田会長、北川職務代理
赤星委員、大川委員、小川委員、藤崎委員、小嶋委員、佐伯委員、
菅原委員、竹村委員、田中委員、長荒委員、西村委員、吉川委員
（欠席者） 5名

（事務局） 山室企画部長、瀬尾経営企画課長、鈴木主幹(兼)係長、成澤主査、
田伏主任主事、吉川主事

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 2名

《審議の経過》

■議題1 総合計画審議会(第5回)の意見と回答について

（委員） パブリックコメントの意見は、どの媒体で提出されたものが多かったのでしょうか。

（事務局） 市ホームページ上に入力フォームを設けたところ、多くの回答をいただきました。また、紙での意見の提出も多くみられました。

■議題2 基本構想骨子案のパブリックコメントの結果について

（質問なし）

■議題3 基本構想骨子案への議会からの意見と対応方針について

（委員） 議会からの意見の中で「若い世代が移住、定住するための支援策」との記述がありますが、若い世代がどの年代を想定しているのかを把握できていますか。

（事務局） 子育ての分野では、「若い世代」というと結婚、妊娠、出産、子育ての世代を指し、20・30代を想定しています。

■議題4 将来都市像（案）について

- (委員) 将来都市像は、相当悩まれて作られたのではないかと思います。私自身は、伊勢原に住んで「暮らしやすさ」ということをすごく実感しており、ちょうどバランスのいいまちであると考えています。
- 一方で、一市民としてどうかと思うところが、「人と自然と歴史が織りなす」というフレーズです。伊勢原市に住んだ人から、果たしてこのフレーズが出てくるのでしょうか。大山などの自然や歴史があるので、このようなフレーズにする意図は分かりますが、「人と自然と歴史が織りなす」というのは、全部寄せ集めしようとしているように見えます。「暮らしやすさ実感都市」とあわせて、「大山」などのキーワードを入れることで、何か伊勢原市民としてまちを誇れる、若い人達でも覚えられるようなフレーズを、もう一工夫してもらいたいです。市民代表としてこの点だけは申し上げておいた方が良くと思い、発言させていただきました。フレーズも長いというのが率直な私の意見です。
- (事務局) 伊勢原を表せるような言葉がないかという前回の会議での委員の意見を受けまして、事務局や庁内全体で検討し、今回の将来都市像（案）を作成しています。例えば、「大山」という言葉を使った案を庁内で検討した経過がありますが、総合計画は市全体でまちづくりを進め、どの地区も分け隔てなく住みやすいまちをつくっていくという観点があることから、「大山」という言葉は、大山地区に偏るような印象をもたられる懸念があるという意見もあり、地区を特定するような印象を与える固有名詞は使わないこととしました。「人と自然と歴史」は、市民意識調査でも多く意見があった伊勢原の特性を表し、この特性を活用しながらまちづくりを進めていくことを表しています。
- なお、フレーズが長いという話もありましたが、将来都市像で一番伝えたいことは「暮らしやすさ実感都市」であることをご理解いただければと思います
- (事務局) フレーズが長いという説明の補足ですが、現行の第5次総合計画の将来都市像は「しあわせ創造都市いせはら」とよく言われますが、正式には「豊かな自然に包まれ皆の力が次代を拓く しあわせ創造都市いせはら」となります。第5次総合計画では、しあわせを創造し、第6次総合計画では次の段階として、それを実感していきましようということをセットで考えております。
- (会長) 大事なご意見なので、ご配慮いただければと思います。
- (委員) 皆さんは伊勢原市を内側から見ているので、この将来都市像のフレーズは、基本的には市民に向けて作られたのだと思います。しかし、市

民だけではなく、市外から来て働いている人、学んでいる人、遊びに来る人など関係人口も対象にしたほうが良いと思います。外から伊勢原市に来て活動している人間から見たら、「暮らしやすさ実感都市」はどこ自治体も言っています。将来都市像にも伊勢原の特徴が入っていると、シビックプライドにつながると考えます。

例えば、「自然」については、伊勢原の自然は本物の自然です。新百合ヶ丘や下北沢などでは、自然というと緑の街路樹が思い浮かぶので、市民のアンケートを実施しても自然が豊かであるという回答はありません。伊勢原の本物の自然は、プライドだと思います。また、大山には歴史もあります。自然と歴史とくらしというのが伊勢原の三本柱だと思います。

メリットを見栄え良く打ち出すには、将来都市像(案)の前半後半を並列化し、「自然・歴史・暮らし」とした方が良いと思います。

(会 長) 伊勢原に自然が残っているということが非常に重要なのだと思います。大切なところなのでもう一度検討していただきたいと思います。

■議題5 基本構想(案)について

(委 員) 人口推計ですが、今後の10年間の推移はどのように捉えていますか。

(事務局) この10年の間に人口は10万人を切るということと、更なる高齢化が進み、令和12年には30%の方が高齢者になるという予測がされています。また、更なる少子化により年少人口、生産年齢人口が減少していくと推計しています。

(委 員) 高齢化率が30%になると財政的な問題にもつながると考えます。市役所本庁舎を中心として、消防本署も老朽化が進み、いずれは建て直さなければならないと思います。しかし、総合計画の中にそれがあまり触れられておらず、それに伴う財政計画も必要と考えます。総合計画の中に将来的に庁舎の建て替えとか、あるいは公共施設の再編なども含めないといけないと考えます。

(事務局) 御意見のとおり、生産年齢人口が減少する中で、市の税収の減少が懸念される中で、公共施設を集約、再配置、縮充していくことで長寿命化や更新にかかる経費を平準化しながら進めていく必要があります。総合計画における財政の見通しは、基本計画で位置づけたいと考えています。公共施設の今後の進め方についても基本計画で、具体的に対応してまいりたいと思っております。

(委 員) 将来都市像やまちづくりの基本理念では「自然」や「歴史」についての記載があります。しかし、基本政策では、ほとんど自然と歴史につ

いての記述がありません。基本政策Ⅲで「先人から受け継いだ歴史、文化を大切にするとありますが、この一言で埋没してしまっています。また、基本政策Ⅳでは、マイクロツーリズムの普及などという言葉と魅力ある観光の振興の取組ということは書かれていますが、大山という非常に大切な観光資源が前面に出てきていません。産業がどんどん弱まっていく中で、自然、歴史、観光を生かし、産業を強くするということが書かれていた方が良くと思います。

(事務局) 御意見を踏まえ、もう少し伊勢原の特性を基本政策のところに結び付けていくことができないか、検討をしたいと思います。

(会長) 大事なご意見をいただいたと思います。
基本政策Ⅳについては、気候変動、海洋プラスチック、生物多様性の損失はまとまりがないと思います。地球環境、循環型社会と別に考えてもらいたいです。

(委員) 土地利用構想に記載されている「ツインシティ構想」について教示ください。

(事務局) 相模川を挟み、寒川町側と平塚市の大神地区で、川を挟んだ二つのまちがツインシティで、その間を結ぶ都市計画道路をつくる予定となっております。なぜ、寒川町で開発されているかという、新幹線の新駅を寒川につくりたいということで、現段階で関係のある自治体で取り組みを進めているところです。相模川をわたって平塚市の大神地区は、既に区画整理事業が進められており、例えば、物流兼倉庫、商業系の施設の立地が始まっているようです。今度そこから伊勢原をつなぐ幹線道路を作ろうということで、伊勢原市、平塚市、厚木市など関連自治体と県が相談をしながら、取組を進めています。

■議題6 前期基本計画（素案）について

(委員) 全ての施策に対してSDGsのゴールの中の17番の「パートナーシップで目標を達成しよう」が入っていますが、想定されるパートナーとしてどのような主体を想定しているのか分かりません。これを読んだ市民や関係者の方が、自分ごととして捉えられるような記述があると良いと思います。

(事務局) 多様なパートナーでまちづくりを進めて行くという考え方はまちづくりの基本理念でも示していますが、具体的には、基本計画の下の実施計画で大学や事業者との連携について記載することができるかを検討してまいります。

(会長) 開発目標は(Development Goal)ですが、「目標」と漢字で書いてある

ところと「ゴール」とカタカナで書くところがあり、漢字で書いてもカタカナで書いても間違いはないが、表現の統一を考えてください。

(事務局) 表現について、見直しを検討します。

■議題7 いせはら元気創生戦略(素案)について

(委員) いせはら元気創生戦略については、総合計画を読む時間がない市民は、総合戦略を読めば重点的に取り組むことが分かるという理解でよろしいでしょうか。

(事務局) 御意見のとおりです。基本計画では、37本の施策が分野ごとに位置付けられています。一方で、総合戦略では、市がどのような方向でまちづくりを進めるのか、人口減少に対応していくのか、といったことを整理し、表すものになります。